
神羅万象ゼクスファクター オリストーリー短編（仮題）

雑炊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神羅万象ゼクスファクター オリストーリー短編（仮題）

【Nコード】

N8094Y

【作者名】

雑炊

【あらすじ】

ゼクスファクター短編・・・というよりは予告編？
でも続けるかどうかは未定・・・

(前書き)

とりあえず過去の遺物を短編くらいに纏めて思い切って晒してみること。

今思ったけど、あんまりこつこつ作品は見た事ないな・・・
因みにちょっとだけ中二病こじらせてるかも知れません。

．．．．．ずっと．．．．．その背中を見て育ってきた．．．．．
そして憧れていた．．．．．

「カイ！！見ろ！！外海獣だ！！！！始めて見た！！！！バラして売り
に行くぞ！！！！」

「ちよっまっ！兄貴！！ちよっと待て！！！！」

．．．．．ずっと．．．．．見守ってきた．．．

「イズナー、油揚げ食べるかー？それとも稲荷寿司にするかー？」

「後者で！！！」「あいよー」

「兄貴・・・イズナを餌付けするなよ・・・」

「？ 何で？可愛いじゃん？」

「・・・あのな・・・」

・・・ずっと・・・離れて暮らしていた・・・

ズドオオオオン！！！！

「親父ー！序に母さーん！！給料上げろー！！！！！！」

「そんな事の為にわざわざモップで学園長室の壁を壊すんじゃない!!!」

「やだ」

「即答!？」「・・・育て方を間違えたか・・・!」

「いや、ここ数年間、俺二人に育ててもらった憶え無いから・・・」

「ぐふぁ!？」

「え?啞血するほどの事だったか今の?事実じゃん・・・」

・・・会った時から・・・気になっていた・・・

「・・・ん?・・・おお、委員長ちゃん。こんな朝から先生の所にプリント取りに行ったの?」
「苦労さんだねえ」

「お、大きなお世話です！！大体、何であなたはカイ君の双子のお兄さんなのに、用務員なんかやってるんですか！？」

「私の稼ぎはみな全てアイツの学費に回されます」「生意気言っでごめんなさい……………」ん。大丈夫だからそんなに頭下げなくていいぞ……………うん」

……………会った時から、あいつはなんか気に食わなかった……………

「おう用務員野郎！！今日こそ勝負だ！！今度こそは俺が勝つ！！
！ね、オヤビン！！！」

「おう！！今日こそ本気の本気だぜ！！！！」

「……………カイ、GO」

「いやなんで俺だよ！？」

「……………（チツ）行かんとかけつの穴に波動砲はっしゅーオラア
アアアア！！！！死にやがれエツジイイイイ！！！！！！！！！！」
……………さーて仕事仕事と……………」

ンナア！？ナンデオメガクンダヨカイ！？ ウルセエエエエエ！

！シネエエエエエエ！！！オモニオレノヘイオンノタメニシネエエ
エエエ！！！！

・・・会った瞬間に憧れた・・・その強さに

「山田違う！！！！その構えはもっとこういう風に猫足になるんだ！
」！」

「はい！！師匠！！！！」

「・・・ルリ丸。あんたそれで良いの？つーか山田って誰？」

「ググレカス！！」

「そっだよミミ子！ガッチさんは凄い人なんだよ！！」

「・・・いや、誰よソイツ・・・」

・・・会った瞬間に確信した・・・彼は異質だと・・・

「生徒会長。コレ此处で良いんですか？」

「うん。いつも手伝ってくれてすまないね」

「いやいや、コレも用務員の立派な仕事ってね・・・あ、副会長。髪飾り拾ったからあげるよ。はい」

「いきなり何を渡してくるのよ・・・しかも拾った物って・・・
・ちゃんと落とし物として届けなさい」

「めんどいんでパス。あ、ケンケン髪飾りいらん？」

「ケンケンと呼ぶな!!!第一、呼んでいいのはカナト様だけだと何度言ったら分かる!!!」

「えーと・・・もう5回言われてるから・・・あと95回」

「っ……………!!」

「おお?やる気か?やる気なのかこのポンコツ執事が?悔しけりや
月のお屋敷で頑張ってるヒツジの執事さん並にできるようになっ
てからこいや。ん?」

「……………いやあ二人とも仲良いなあ……………ハハハハハ……………
……………」

「……………ハア……………なんか彼が用務員としてきてから、溜息が
多くなった気がするわ……………」

様々な人に影響を与え続ける少年・・・・・・・・それは世界の運命すらも捻じ曲げる。

「・・・・・・・・何者だ？」

「ハッ！スットンキョーな仮面被って人を襲ってるような変態君に教える義理あ無えよ！」

「おいカイ！！そのお面の足止め頼む！俺はこのお嬢ちゃん病院に連れてくわ！！という訳でおぶさね。因みに下心とかそういうのは一切ないから」

「寧ろあったらぶっ飛ばすわよ・・・・というか、そのお嬢さんって言っの、やめてよ・・・・っ！！」

「ああコラ！怪我してるんだから無茶すんなよ・・・・」

「友達が出来たのか……ただ、三日三晩ぶっ続けて戦ってるって言うのは、兄ちゃん関心できねえなあ……？」

「……うるせえな……結局勝てたんだから良いだろ？」

「待てカイ。お前あれは如何考えても引き分けだろう」

「いや、俺の方が有効打ってた数は多かった。だから俺の勝ちだ」

「いやいやそれだったら、私の方が入ってただろう」

「いやいやいやそれは……」

「……おい……いい加減にしねえと二人とも世界の果てまでフルスイングでぶっ飛ばすぞ……？」

「……む？新たな侵入者、か？」

「さあねえ……？とりあえず……苦戦してんな、カイ！
！手はいるか？」

「いらねえよ！！寧ろそこで俺が何処まで成長したのかバツチり見
てる糞兄貴！！！」

「ハッ！そしたら見せてもらつとすつかねえ……危なくなっ
たら助けてやるよ」

「応！！！」

「さて……敵は自分と弟以外の生徒全員……か……
・親父め……用務員に無茶させすぎだろ……！！！！つー
か俺、こういうのは嫌いだって言うのに……」

「グッ……とか、言っついて、もう俺達60人をボコボコに
してるじゃないか！！スツゲー良い笑顔でブツクサ文句垂れやがっ

『ドゴツ』テブオ!？」

「五月蠅いぞ負け犬共。負け犬は負け犬らしく地面に這い蹲ってる」

「……おや?おかしいね……私の知り得る未来には、君の姿は微塵も無かった筈……。それに、私の情報網にも引っ掛からないとは……。何者かな?」

「さあな?……とりあえず言えるのは

俺が単なる用務員だって事くらいだよ

神羅万象：ゼクスファクター

(仮名) 地味用務員最強伝説

始まるかどうか未定。

「とりあえず^{テニシキ安}理事長!! 給料の底上げを要求する!! 具体的には
50%程度!!!!!!」

「いきなりバケツを使って扉を粉碎してから、何を言い出すのだね
!?!」

(後書き)

如何でしたでしょうか？

とりあえず纏めてみました。

一応稚拙な文ではありますが最後まで描いてあったので、見つけた時は驚きました。

確か春休みか何かの暇つぶしで書いた記憶が・・・？

まあ、大本はバラけてしまつて、幾つか行方知れずになっているから、如何とは言えないのですがね・・・・ホント何処行つてしまつたんだか・・・

試しに皆さんに聞きたいのですが・・・・続き見てみたいですか？これ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8094y/>

神羅万象ゼクスファクター オリストーリー短編（仮題）

2011年11月23日23時55分発行